

交通事故防止対策の取り組み状況

令和2年12月17日(木)



「トラック事業における総合安全プラン2020」目標達成に向けた取組み

目 標

国
交
省

■ 事業用自動車総合安全プラン2020

区 分	平成28年実績(参考)	平成32年目標
交通事故死者数	363人	235人以下
人身事故件数	33,336件	23,100件以下
飲酒運転事故件数	54件	飲酒運転ゼロ

全
ト
協

■ トラック事業における総合安全プラン2020

区 分	平成28年実績(参考)	平成32年目標
交通事故死者数	270人	200人以下
人身事故件数	14,600件	12,500件以下
飲酒運転事故件数	37件	飲酒運転ゼロ

重点削減目標と具体的促進策

★死亡事故件数に係る重点削減目標の設定

- 事業用トラックを第一当事者とする死亡事故件数を車両台数1万台当たり「1.5」件以下とし、各都道府県(車籍別)の共有目標とする。

★重点削減目標に向けた具体的促進策

- 事業用トラック重点事故対策マニュアルに基づいた各種セミナーの開催・受講の促進
- 飲酒運転撲滅運動の推進
- ドラレコ及びデジタコ等安全管理機器のより積極的な導入の促進

トラック事業における目標達成に向けた取組み内容

1. 行政・事業者の安全対策の一層の推進と利用者を含めた関係者の連携強化による安全トライアングルの構築

- 交通事故防止の意識の高揚を目的とした「トラック追突事故防止マニュアル活用セミナー」、「交差点事故防止マニュアル活用セミナー」、「ドライブレコーダ活用セミナー」の開催。
- 「過労死等防止・健康起因事故防止セミナー」の実施。
- ドライバーの睡眠時無呼吸症候群(SAS)スクリーニング検査助成事業の実施。
- 初任運転者教育の充実、安全運転研修に対する助成の実施等。
- 運輸安全マネジメントについて、官民一体で取り組む普及・啓発活動の推進。
- 運転技術、安全意識向上を目的とした、トラックドライバー・コンテストの実施。
- 「正しい運転・明るい輸送運動」「年末年始の輸送等に関する安全総点検」等、各種事故防止キャンペーンの実施および、事故防止コンクール(運転経歴証明書取得)の全国展開。
- Gマーク制度および引越安心マーク制度の普及促進。

2. 飲酒運転等悪質な法令違反の根絶

- 飲酒運転撲滅運動の推進。
- 「飲酒運転防止対策マニュアル」を活用した飲酒運転撲滅の啓発。

3. 自動運転、ICT等新技術の開発・利用・普及の推進

- 衝突被害軽減ブレーキ等のASV関連機器を導入した都道府県トラック協会の会員事業者(中小企業者)に対する導入助成。

- 高度なIT点呼システムの構築と普及拡大および、高機能アルコールチェッカーの活用、推進。
- デジタコ、ドライブレコーダ等の運行管理支援機器の普及拡大の促進。
- 隊列走行実現に向けた取り組みの推進

4. 超高齢社会を踏まえた高齢者事故の防止対策

- 高齢歩行者が事故被害者となる事故実態の関係者への周知徹底。
- 高齢歩行者特有の行動(昼間の交差点及び夜間の道路横断)の啓発活動。
- 事業用トラックドライバーに対する高齢歩行者早期認知の呼びかけ。
- 交差点通過時における車両周辺歩行者等の安全確認の励行。

5. 事故関連情報の分析等に基づく特徴的な事故等への対応

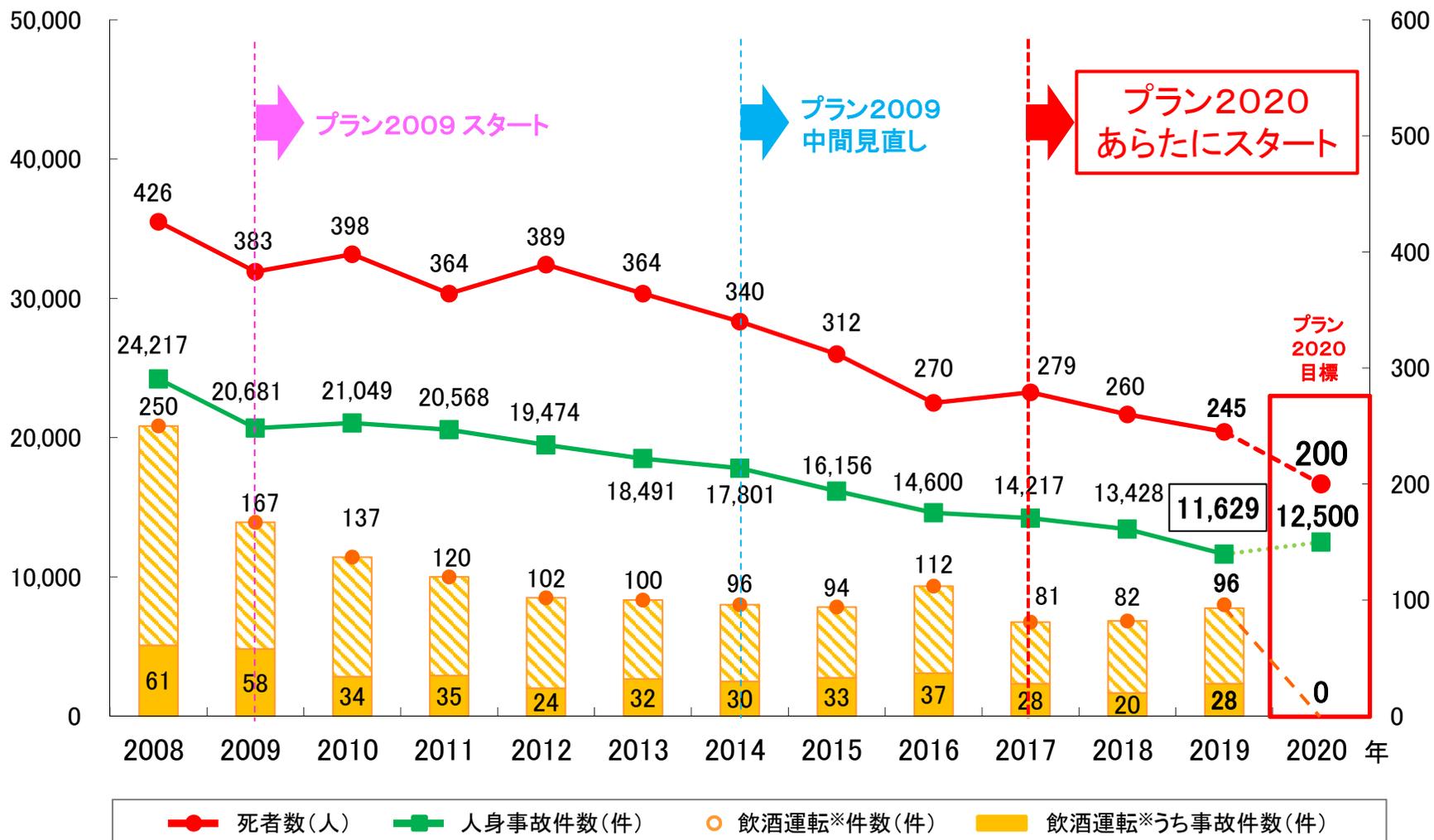
- ◆ 死亡事故件数を各都道府県(車籍別)の共有目標とした取り組みの促進
 - 事業用トラック事故対策マニュアル(追突・交差点)の策定および、対策セミナー開催・受講の促進。
- ◆ 事故分析及び有効な事故防止対策の検討・活用
 - 車籍別、発生地域別、車両区分別、道路区分別等、詳細な事故分析手法への見直しおよび迅速かつ効果的な検証による新たな対策の樹立。
 - 交通事故の種類・類型等の詳細分析による傾向と対策の実施。
- ◆ ドラレコ映像等の情報を活用した運転特性の確認、指導監督の徹底
 - 「ドラレコ導入の手引き」、「ドラレコ活用マニュアル」、「ヒヤリハット集」の製作とホームページ公表。
 - ドライブレコーダー・車載カメラ搭載車(左折巻き込み事故防止対策)への助成事業の実施。



「トラック事業における総合安全プラン2020」目標値と事故の現況

飲酒運転事故件数：飲酒運転ゼロ 交通事故死者数：200人以下 人身事故件数：12,500件以下

※「飲酒運転ゼロ」目標達成のためには、関係者一丸となって取り組む必要がある。



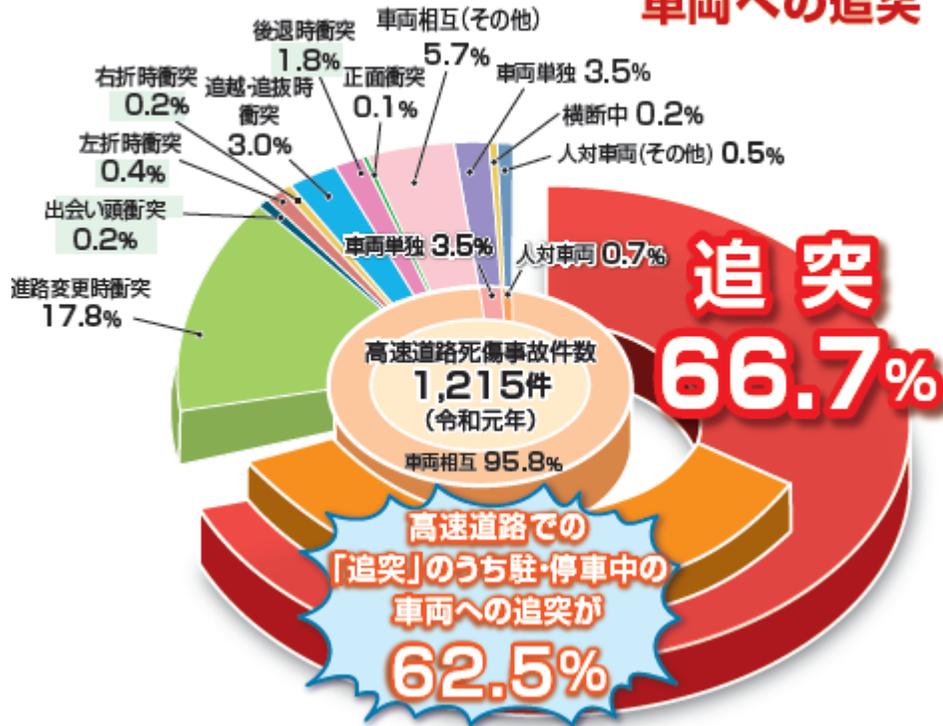
※「飲酒運転」は「道路交通法違反取締件数」の数値で、「酒酔い運転」および「酒気帯び運転」の合計値。

数字はいずれも事業用貨物自動車（軽自動車を除く）によるもの。
出典：警察庁「交通事故統計」および（公財）交通事故総合分析センター「交通統計」

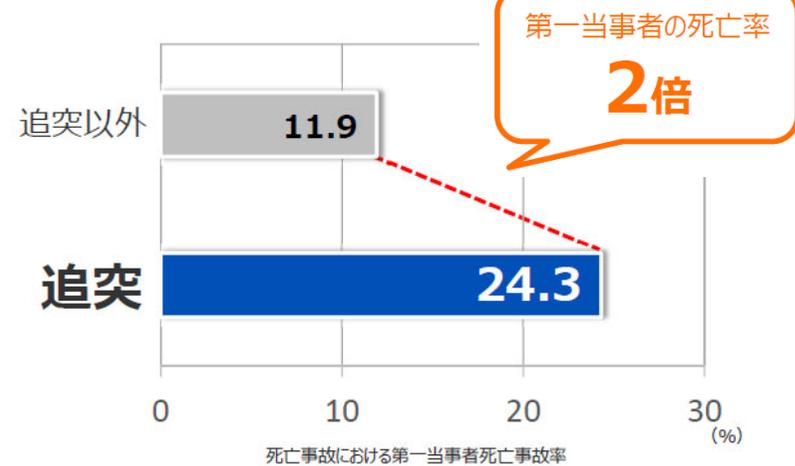


事業用トラックが第一当事者となる追突事故の状況（令和元年）

事業用貨物自動車の**高速道路**での**死傷事故**の約**7割**は追突、うち**6割強**は駐・停車中の車両への追突



衝突被害軽減ブレーキ装着車への全ト協助成事業実施中
車両総重量**8トン未満**の事業用トラックを対象



追突事故と追突事故以外の第一当事者の死亡事故率（令和元年）

事業用貨物自動車の高速道路における事故類型別死傷事故件数の構成率（令和元年）

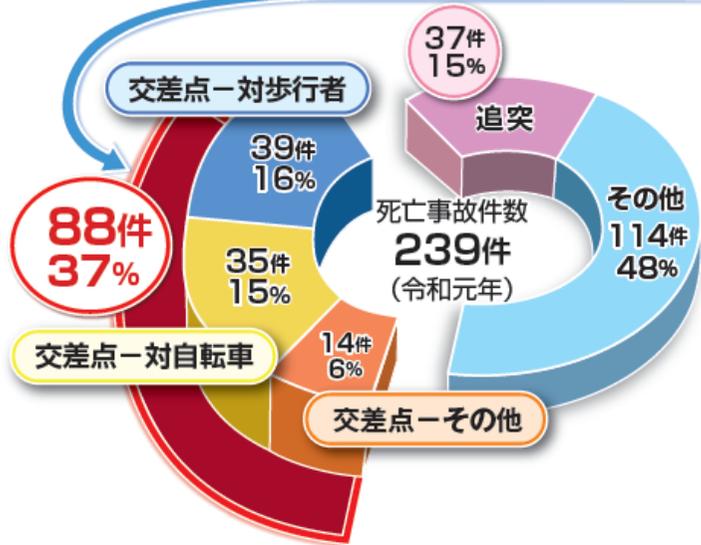
※事故件数は軽自動車によるものを除く 出典：(公財)交通事故総合分析センター



事業用トラックが第一当事者となる交差点での死亡事故の状況（令和元年）

事業用貨物自動車の

死亡事故の約4割は交差点



事業用貨物自動車の事故類型別死亡事故件数の構成率（令和元年）



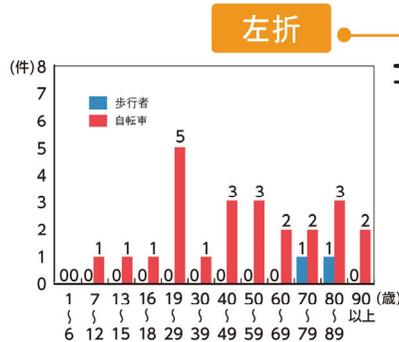
左側方カメラ搭載車への全ト協助成事業実施中

左折巻き込み事故防止対策
車両総重量**7.5トン以上**の事業用トラックを対象

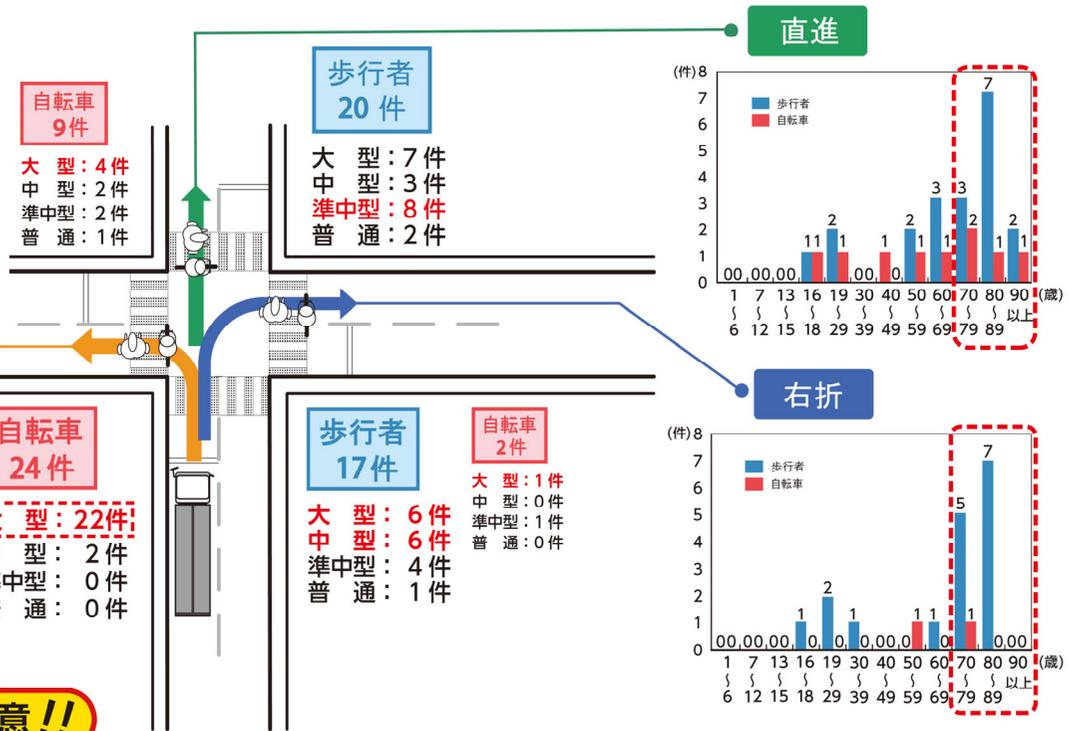
車両区分の解説

大型：車両総重量11t以上
中型：7.5t以上11t未満
準中型：3.5t以上7.5t未満
普通：3.5t未満
※本統計データに軽自動車は含まない

直進時と右折時は特に高齢の歩行者に注意!!



大型車の左折時は特に自転車に注意!!



令和2年度 交通・環境部所管の助成事業（安全関係）

事業用トラックの交通事故ゼロを目指すため、予防安全に資する装置に対する助成事業を実施中。

	助成対象装置	助成対象	助成額
安全関係	衝突被害 軽減ブレーキ	車両総重量3.5トン以上、8トン未満の事業用トラックに搭載された衝突被害軽減ブレーキ装置 ※国の事故防止対策支援推進事業（先進安全自動車（ASV）の導入に対する支援）の衝突被害軽減ブレーキ装置と同一	取得費用の 1/2、 上限5万円
	安全装置	<ul style="list-style-type: none"> ① 後方視野確認支援装置（常時、後方視野が確保できるものに限る。） ② 側方視野確認支援装置（車両総重量7.5トン以上の事業用トラックの左側に側方カメラを装着した場合に限る。） ③ 呼気吹き込み式アルコールインターロック装置（国土交通省の技術指針に適合しているものに限る。） ④ IT機器を活用した遠隔地で行う点呼に使用する携帯型アルコール検知器（Gマーク認定事業所が導入する場合に限る。） 	車両1台につき対象装置ごとに機器取得価格の 1/2、 上限2万円



①後方視野確認支援装置



②側方視野確認支援装置



③呼気吹き込み式
アルコールインターロック装置



④IT機器を活用した遠隔地で行う点呼に使用する携帯型アルコール検知器

飲酒運転防止対策マニュアル

飲酒運転根絶に向けて



このマニュアルは、飲酒運転に対するトラック事業者や管理者、ドライバーの意識改革を促進するとともに、営業所等において飲酒運転防止対策を着実に実施していくことによって、飲酒運転の根絶を図ることを目的として作成されたものです。

飲酒運転の根絶を目指して

～トラックドライバーの飲酒の実態と再発防止策～

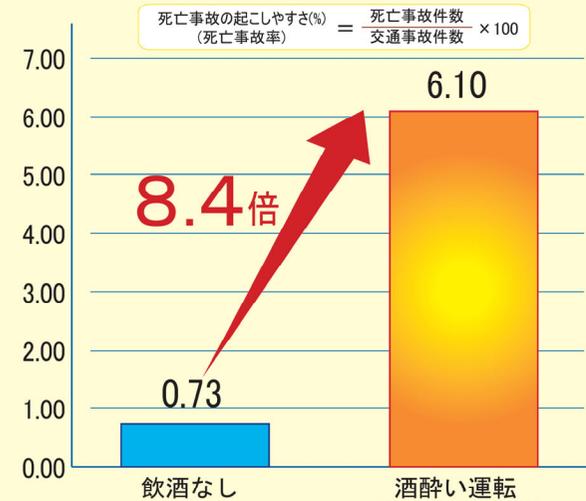
近年、事業用トラックによる飲酒運転事故件数は増加傾向にあります。事業用トラックドライバーによる飲酒運転は反社会的行為であり、トラック運送業界の社会的信頼性を著しく失墜させるばかりでなく、これまで築き上げてきた荷主はもとより、社会全体からの信頼関係をも根底から崩壊させかねない悪質極まりない行為です。

現下の新型コロナウイルス禍においても、トラック運送業界は、国民の暮らしを守り、産業経済活動を支えるために必要なエッセンシャル事業として、多くのトラックドライバーは日夜輸送を行っている中、こうした一握りの心無いドライバーの行為が、トラック運送業界全体に悪影響を与えることとなります。

ここに掲げた飲酒の実態や、こうした飲酒運転の再発防止対策につきまして、トラック運送業界として一丸となって取り組むことが責務であり、最重要課題となります。トラック運送業界から「飲酒運転」を根絶しましょう。

死亡事故の起こしやすさ

「酒酔い運転」による死亡事故率は「飲酒なし」の場合の **8.4倍**



(出典：警察庁交通局・令和元年データ)



事故防止セミナーの開催状況

■セミナー内容

【都道府県トラック協会セミナー】

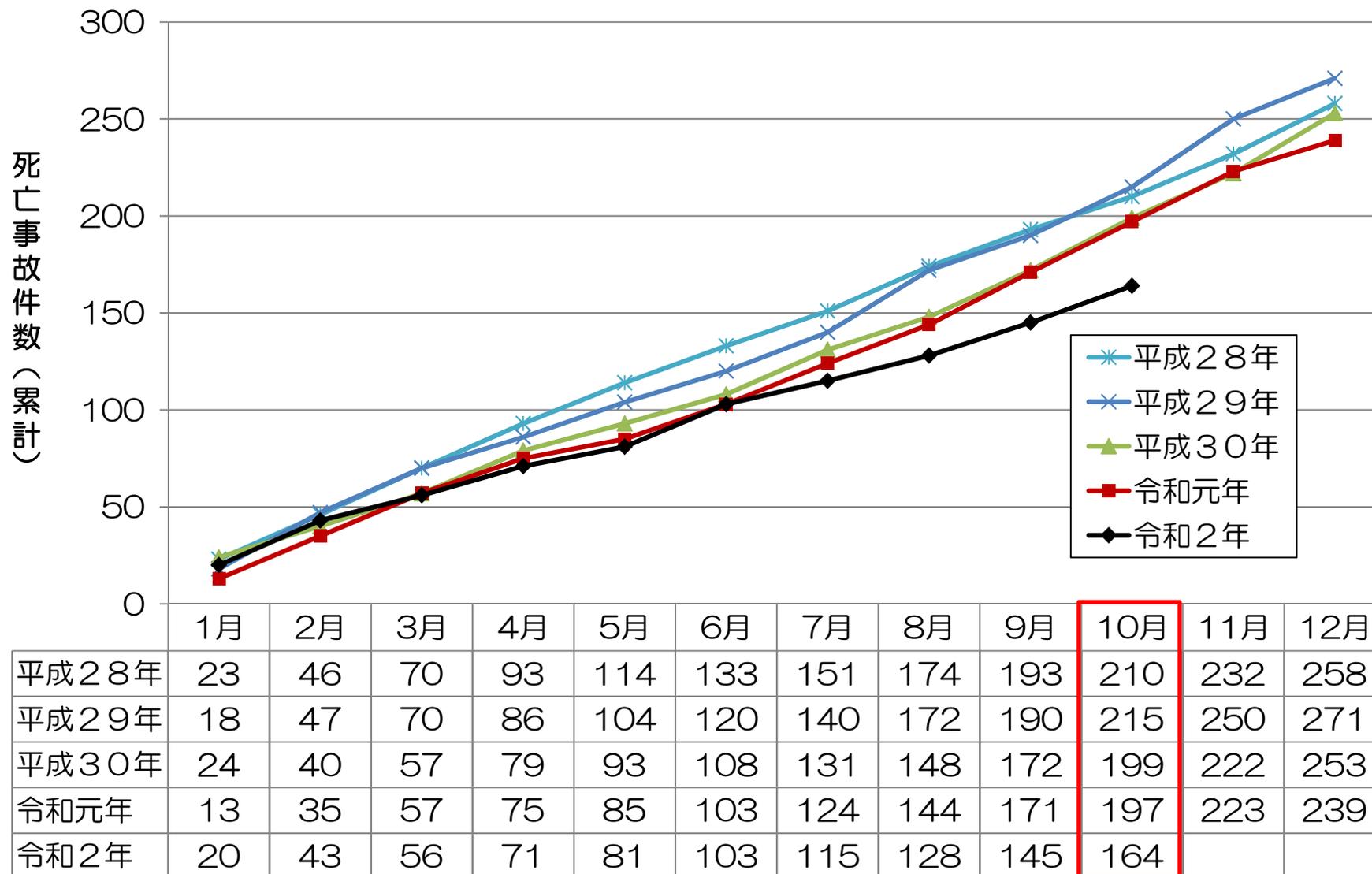
	セミナーテーマ	概要	対象者
①	追突事故防止マニュアル活用セミナー (平成24年度マニュアル制作)	追突事故防止に関して新たにとりまとめた「トラック追突事故防止マニュアル～追突事故撲滅キット～」の内容を丁寧に説明した上で小集団での情報交換を行い、理解を深める。	中小事業者の 経営者・管理者 等
②	ドライブレコーダ活用セミナー(平成26年度～) ドライブレコーダ実践セミナー(平成29年度～) ※令和2年度は実施せず	・「ドライブレコーダ活用マニュアル」を基に、活用事例や実際の映像を交えつつ、ドライブレコーダを日常の安全指導に活用するための情報提供を行う。 ・実際にドライブレコーダを活用している事業者様のインタビュー映像等を交え、自社の実態に合わせたレベルアップができるよう、ポイントを絞った解説を行う。	主にドライブレコーダ 導入済みの 中小事業者の 経営者・管理者 等
③	交差点事故防止マニュアル活用セミナー (平成27年度～)	交差点事故防止に関してとりまとめた「トラック交差点事故防止マニュアル～交差点事故撲滅キット～」について、内容を丁寧に説明した上で小集団での情報交換を行い、理解を含める。	中小事業者の 経営者・管理者 等
④	60分でわかるトラック重大事故対策セミナー (令和元年度～)	「交差点事故」と「追突事故」を中心テーマに、ドライブレコーダの映像を活用して、重大事故の特徴や対策をわかりやすく解説する。	中小事業者の 経営者・管理者 等

【都道府県トラック協会 支部セミナー】

⑤	60分でわかるトラック重大事故対策 出前セミナー(トライアル：平成30年度～)	主に事業用トラック1万台あたりの死亡事故件数が多い都道府県を中心に、「交差点事故」と「追突事故」を中心テーマに、ドライブレコーダの映像を活用して、重大事故の特徴や対策をわかりやすく解説する。	主にドライバーを対象、事業者・管理者も可
---	--	---	----------------------

セミナー名称	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	延べ開催回数	参加人数										
トラック追突事故防止マニュアル活用セミナー	24	1,726	12	674	30	1,522	14	825	20	1,004	9	431
ドライブレコーダ活用または実践セミナー	28	1,317	10	483	15	645	27	1,287	23	962	6	213
トラック交差点事故防止マニュアル活用セミナー	-	-	39	2,418	20	1,138	18	793	21	1,000	7	404
60分でわかるトラック重大事故防止セミナー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	2,043
支部対応「出前」セミナー	-	-	-	-	-	-	-	-	6	280	14	1,552
合計	52	3,043	61	3,575	65	3,305	59	2,905	70	3,246	77	4,643

事業用貨物自動車が第1当事者となる死亡事故件数の推移（H28～R2）



※事故件数は軽自動車によるものを除く 出典：警察庁「交通事故統計」

